

AutoCAD で DISTO D8 使用する方法

DISTO Transfer PC について

DISTO Transfer とは、DISTO 機器から PC に Bluetooth を通して測定値を転送する Leica Geosystems 社製のプラグイン・プログラムです。

本資料は、このプログラムの操作説明が少ないのでそれを補う目的で作成されています。本資料では、AutoCAD との接続を中心に説明されています。

DISTO Transfer for PC は、DISTO D8 に同梱されている CD に入っていますが、最新版を下記のアドレスよりダウンロードしたものを使用することをお勧めします。

http://ptd.leica-geosystems.com/en/Support-Downloads_6598.htm?cid=11104

注意：2 種類の DISTO Transfer が存在しますが、上の for PC and laptop をダウンロードしてください。(他方は、ポケット PC (PDA) 用です。)

上記は、2009/12/13 現在の情報です。

事前の準備は以下の通りです。

- (1) Bluetooth のドライバを PC にインストールする。
一度インストールすれば、必要に応じて USB に Bluetooth 機器を差し込むだけで使用できます。(USB 用 Bluetooth を想定)
- (2) DISTO Transfer for PC を PC にインストールする。
こちらも一度インストールするだけです。

操作の概略は以下の通りです。

- (1) DISTO の Bluetooth 接続準備をする。
 - ① DISTO の電源を入れます。
 - ② Bluetooth キーを押します。
- (2) DISTO と PC の Bluetooth 接続を確立する。
Bluetooth ハードウェアに添付の設定プログラムで、DISTO との接続を確立します。
- (3) DISTO を 2nd レベルにする。
DISTO の 2nd キーを押して 2nd レベルにすると、ブルーの矢印のついた 8 つの方向キーで角度を指定できるようになります。
- (4) AutoCAD に線分として測定値を取り込む
AutoCAD を起動し、DISTO Transfer PC を起動してから、DISTO を操作して、AutoCAD に絵を書き込みます。

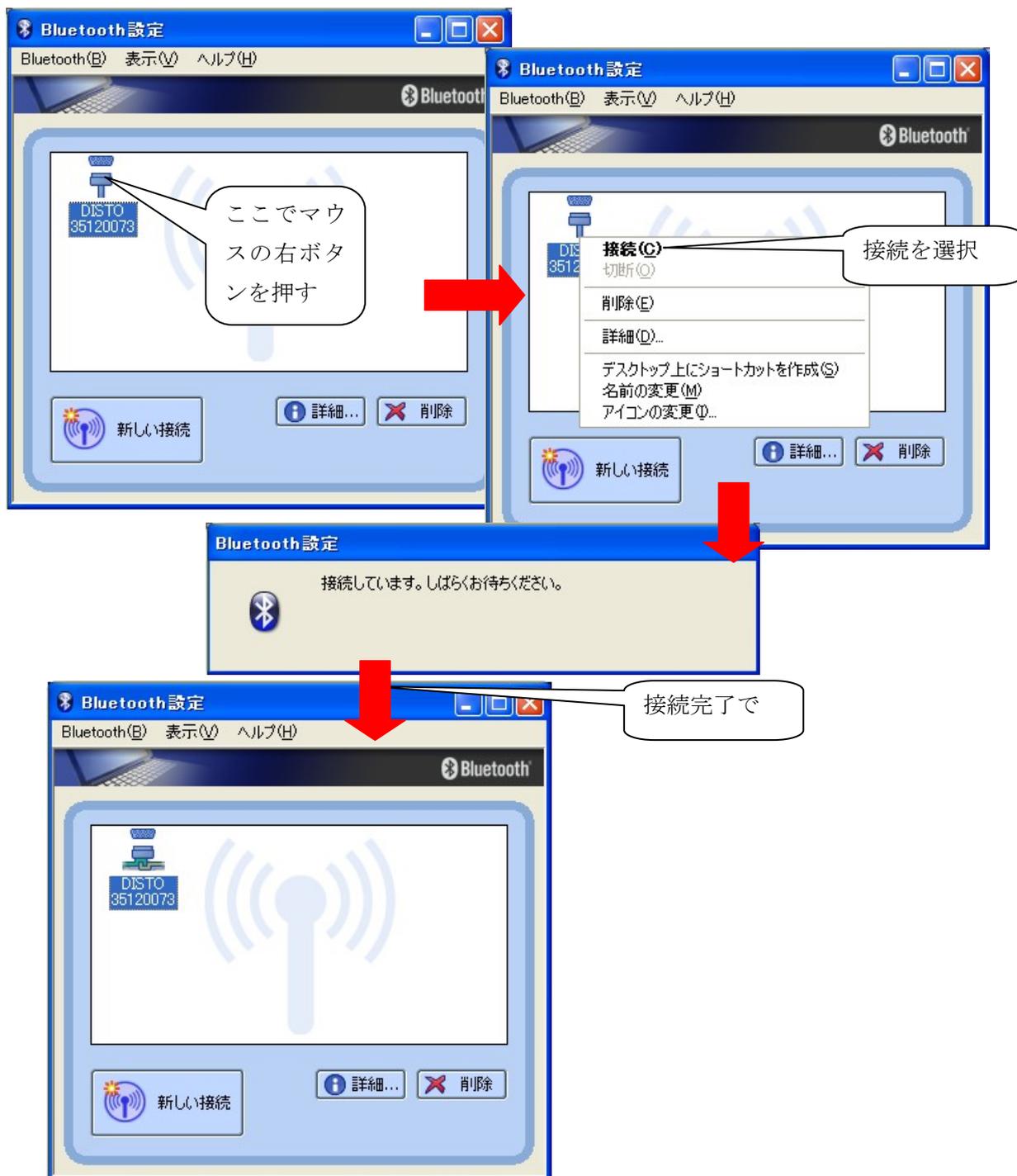
全てのソフトのインストールが完了しており、DISTO の Bluetooth 接続準備ができていているものとして以下を行います。

まず、Bluetooth の接続を確立します。

(Bluetooth の機器によって接続確立方法は異なります。マニュアルを参照してください。)



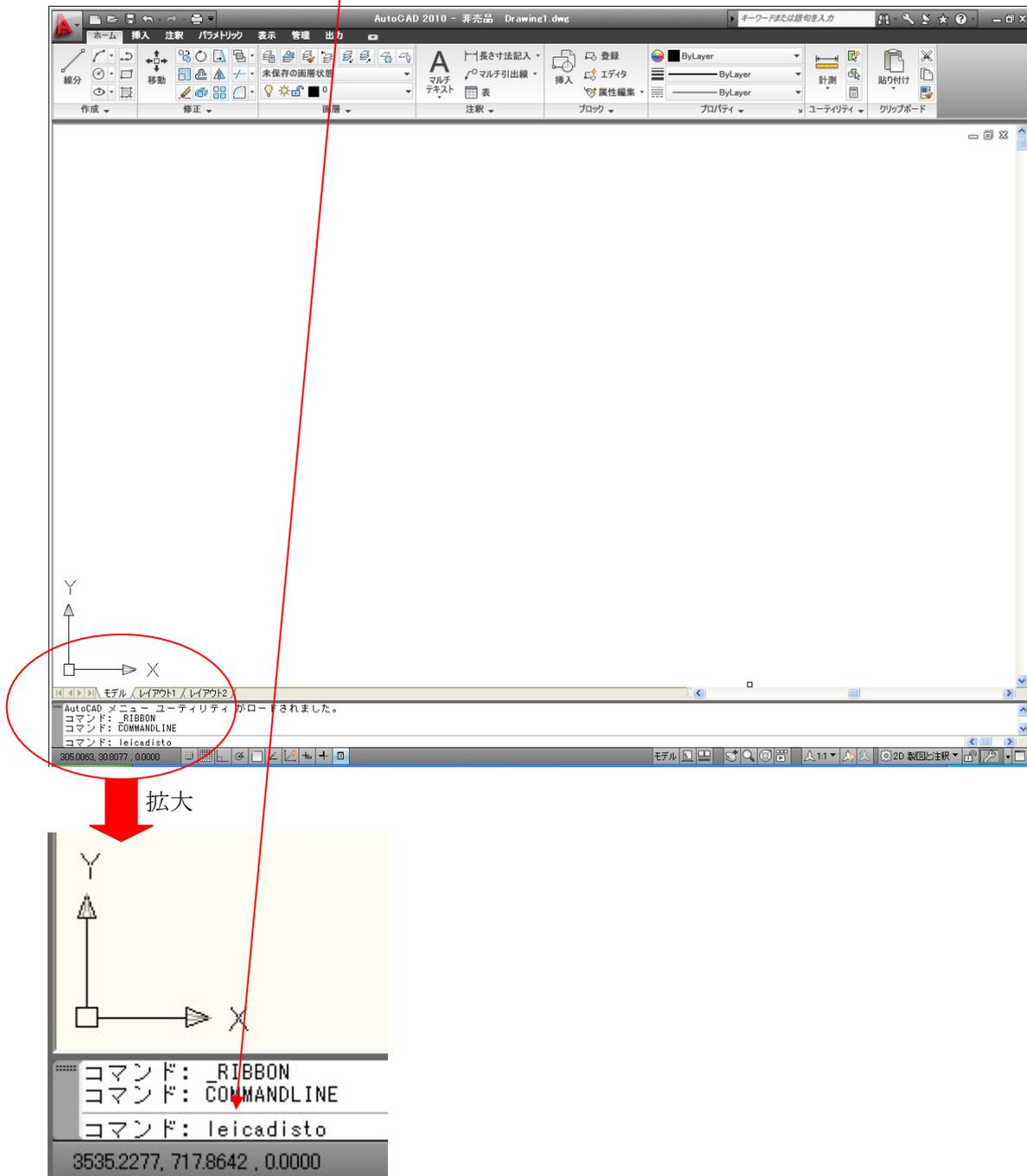
一例：バッファロー BSHSBD02 の場合は以下の通りです。



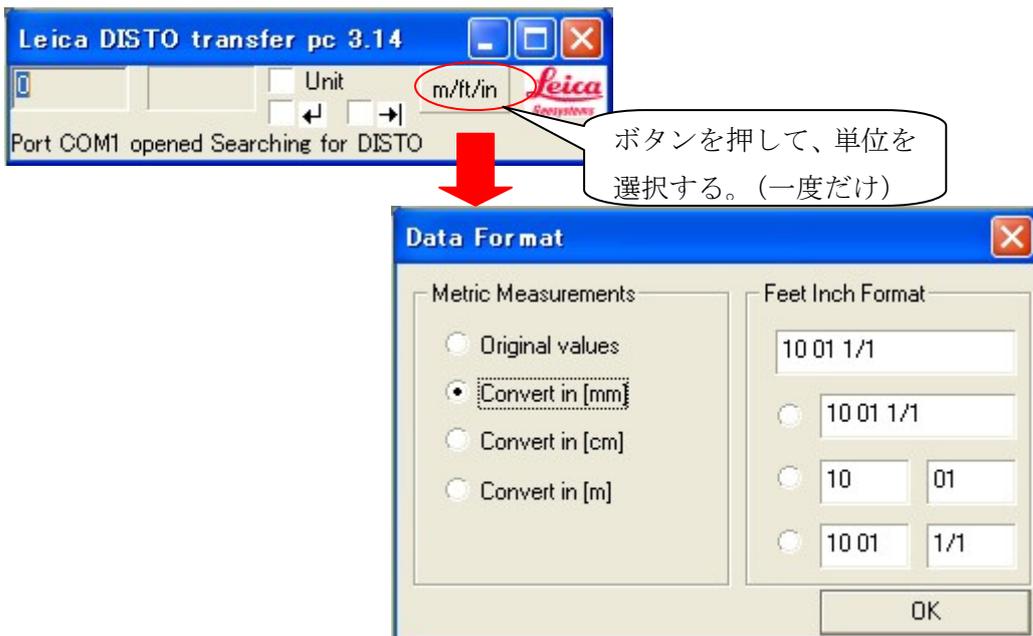
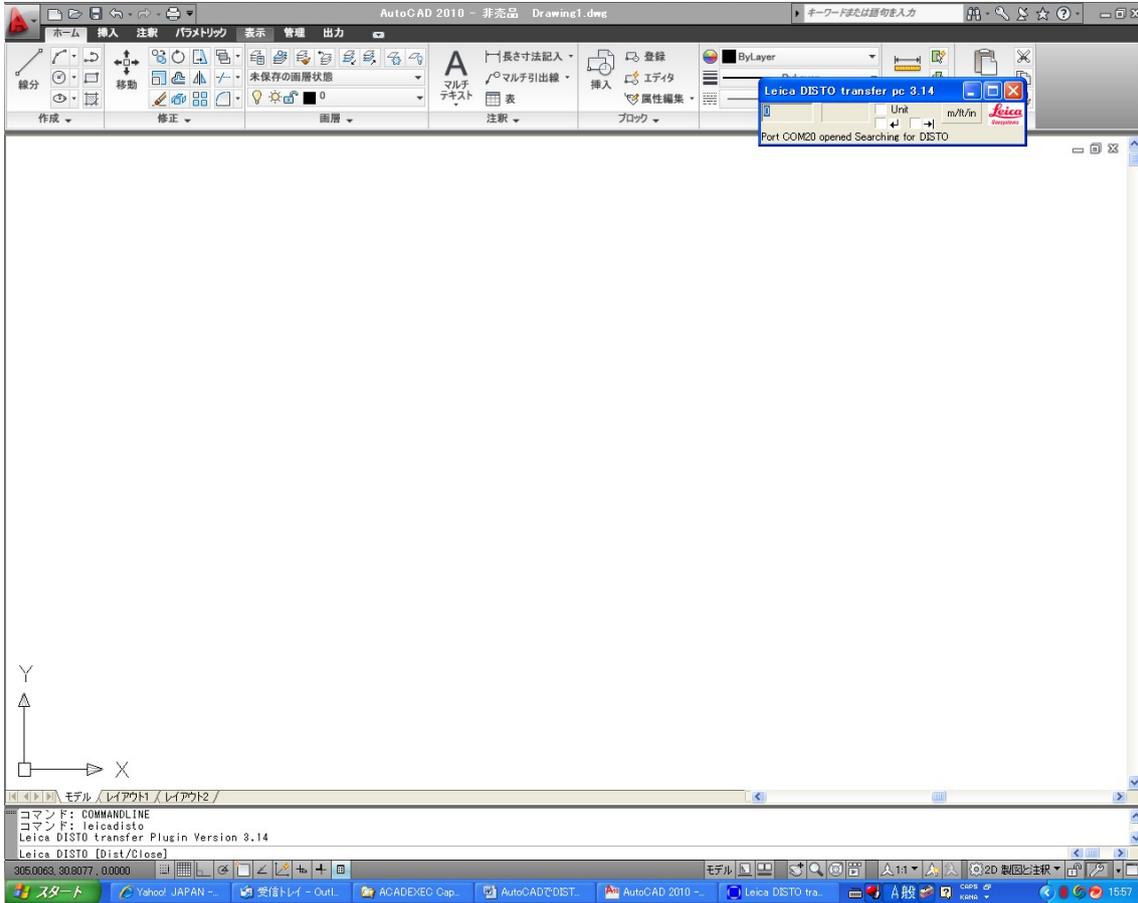
AutoCAD 側の操作 :

AutoCAD の起動後、DistoTransferPC の起動

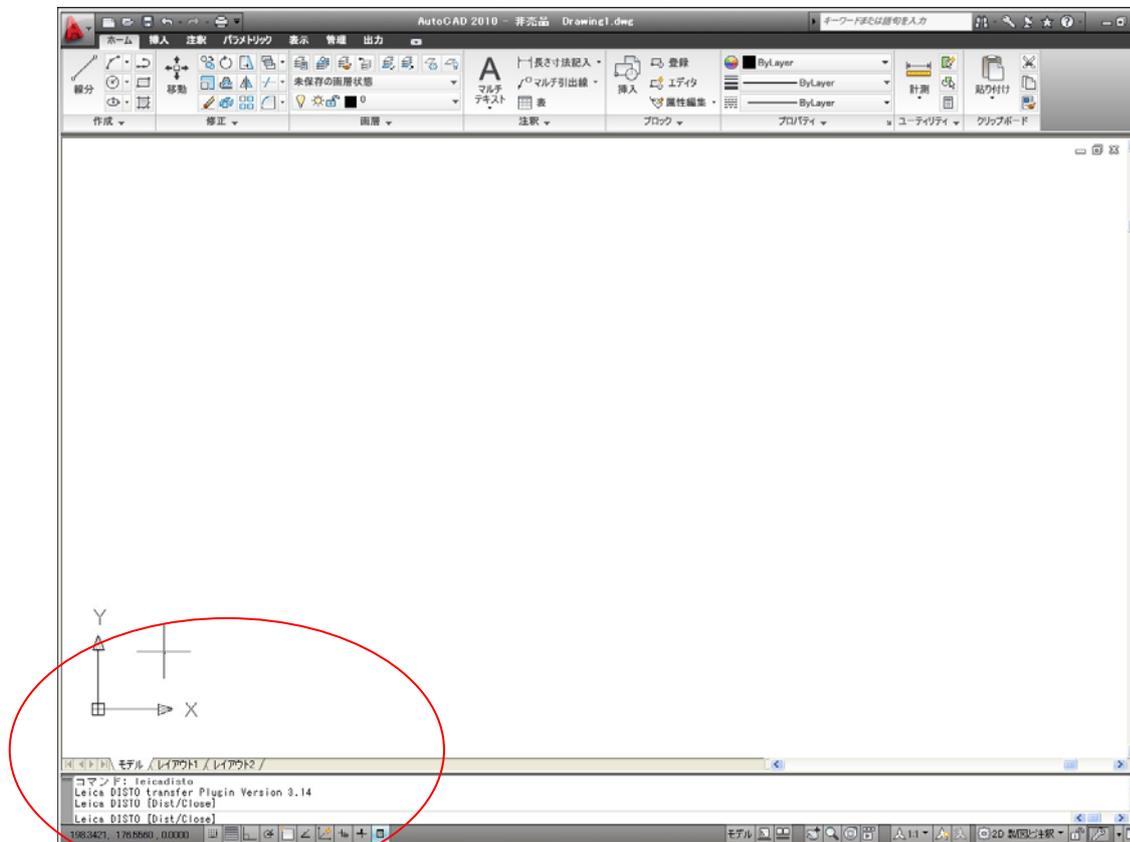
コマンドラインで"leicadisto"をキー入力する。



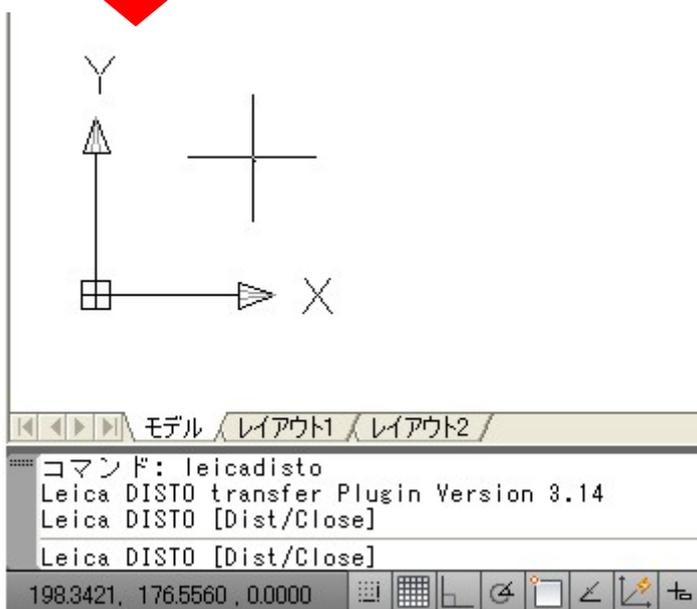
DISTO transfer PC が現れる。



AutoCAD に制御を戻し、作図領域で作図開始点をクリックする。



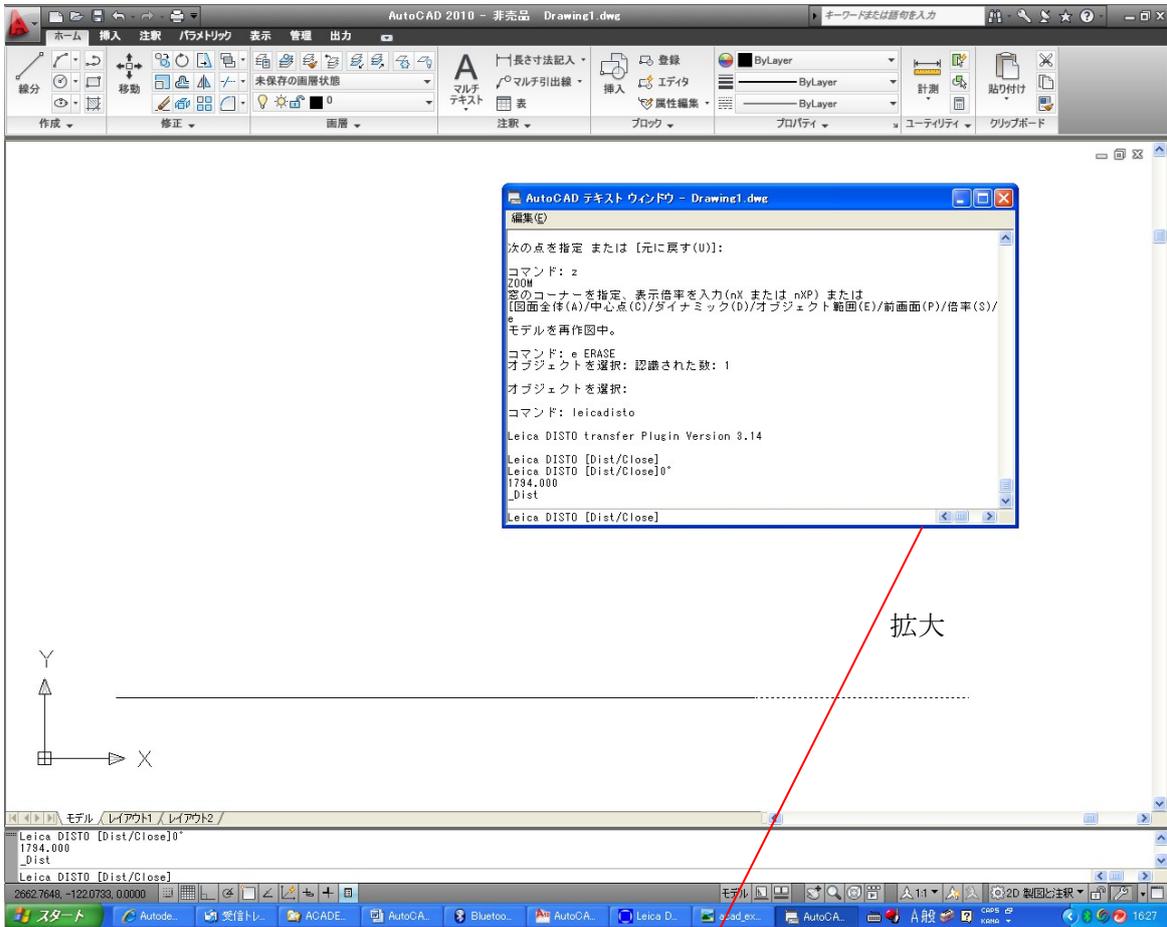
拡大



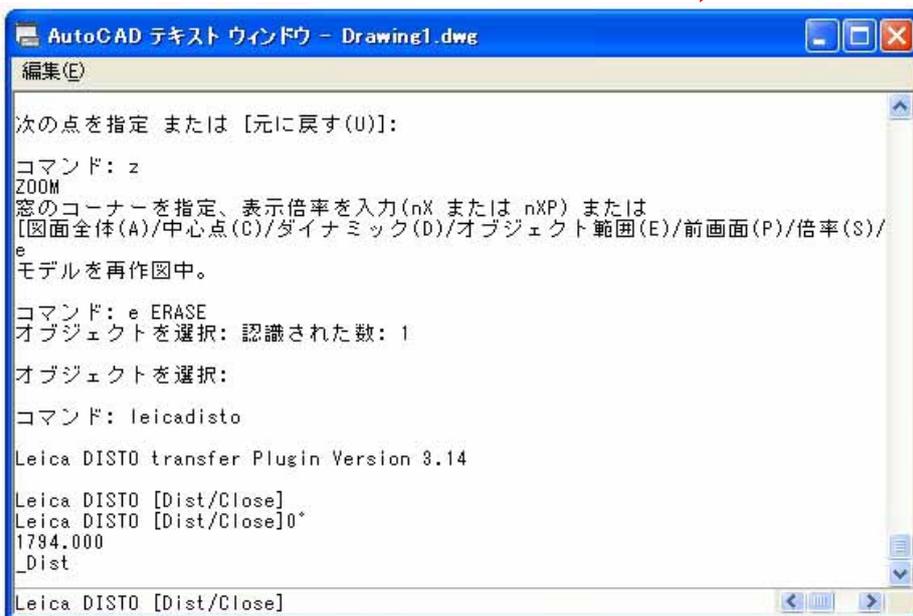
計測開始：最初の線分セグメントの計測（以下の順にボタンを操作して計測）
（基本的に、角度指定（送信）、距離送信で線分が作図されます。）



この操作により、指定点より計測した距離の線分セグメントが X 軸プラス方向に作画されます。（角度送信後に距離を測定しても問題ありません。）
（下図参照）



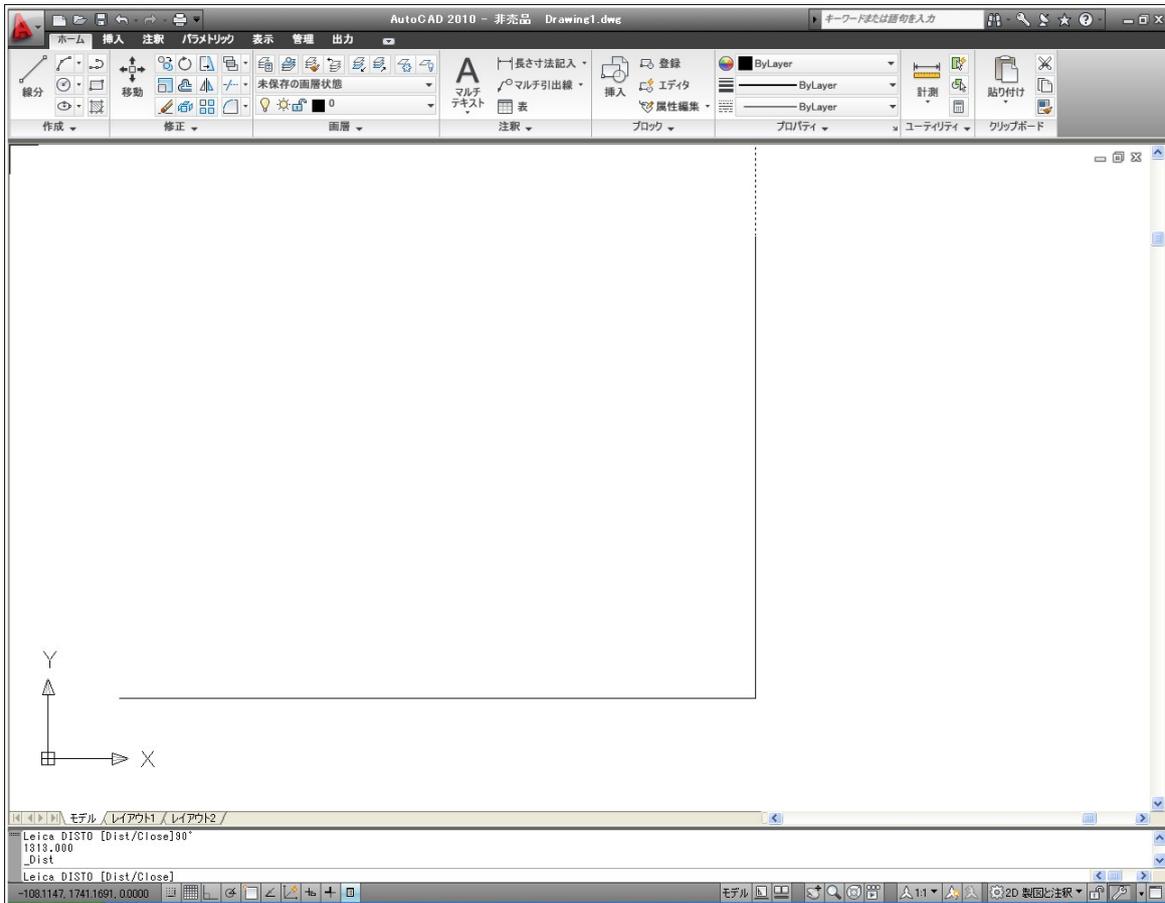
拡大



2 本目の線分セグメントの計測（以下の順にボタンを操作して計測）



前回作画した最後の点から Y 軸プラス方向に線分セグメントが作画されます。
(下図参照)

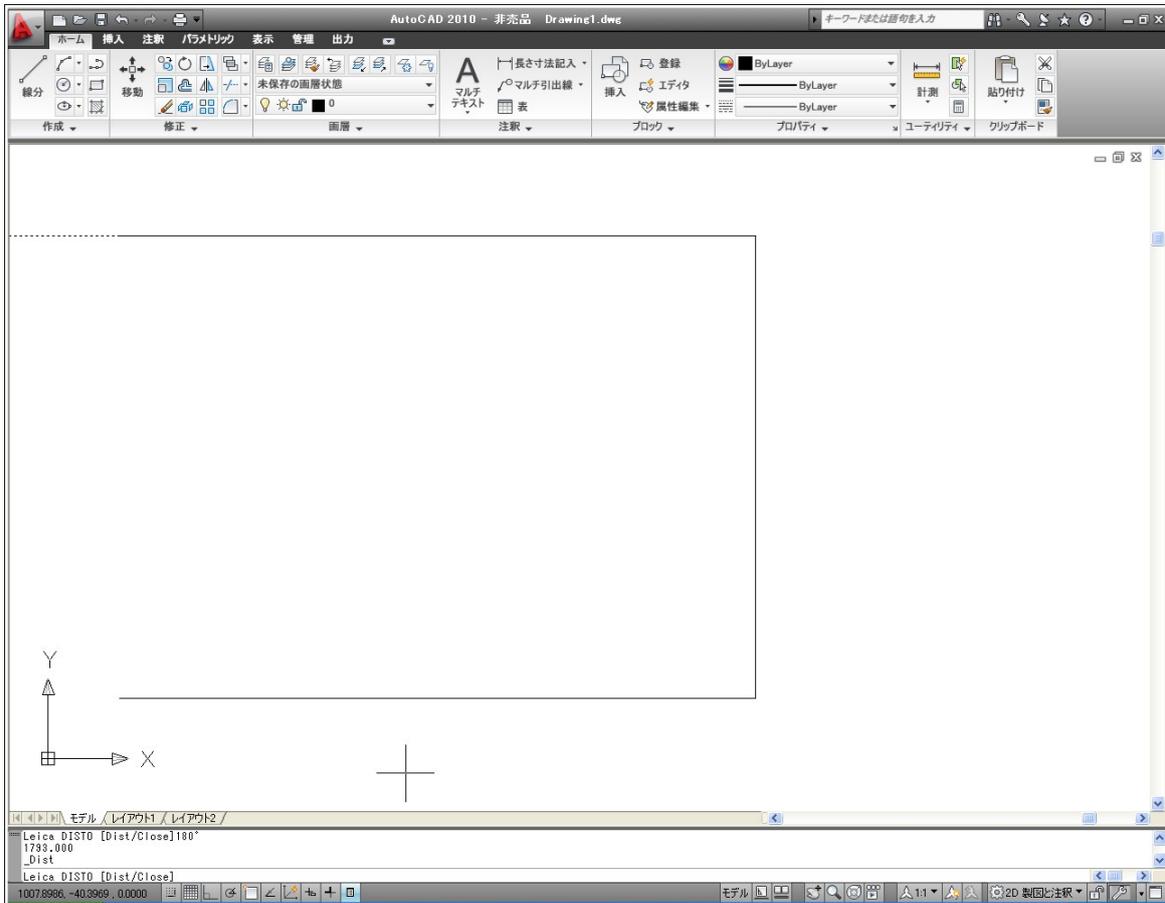


(下図を参照)

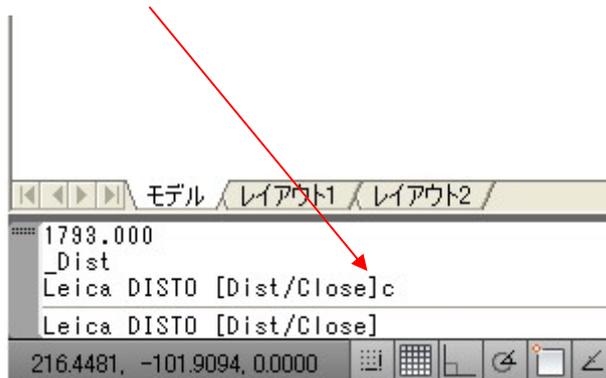
3本目の線分セグメントの計測（以下の順にボタンを操作して計測）



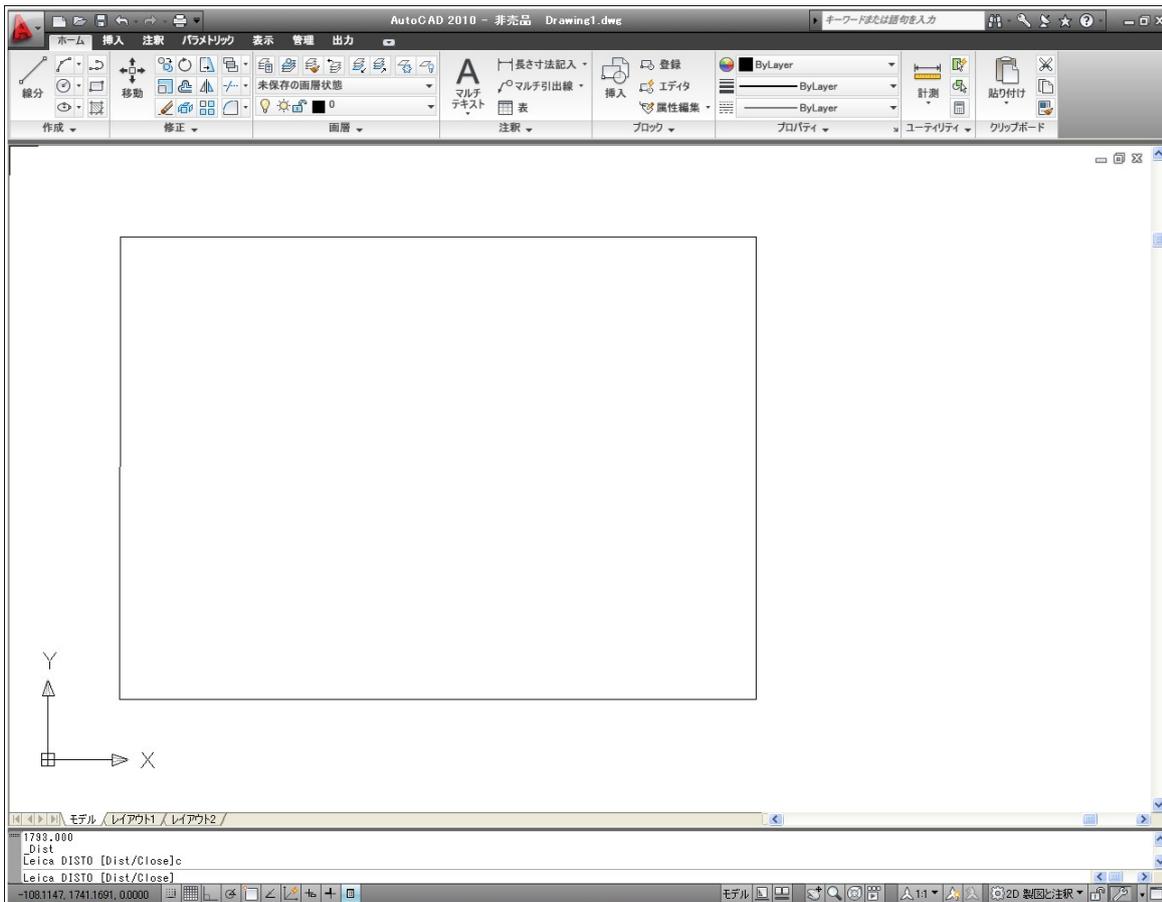
前回作画した最後の点から X 軸マイナス方向に線分セグメントが作画されます。
(下図参照)



ここで、”C”をコマンドラインでキー入力して図形を閉じます。



(下図を参照)



ESC キーを押下して測定モードを終了し、図面に名前を付けて保存します。



上記のような操作を繰り返し、簡単な間取図などを作画します。

最後に Bluetooth を切断し、DISTO Transfer for PC と AutoCAD を終了します。



評価：

良い点；

Disto D8 を使用して、部屋の間取り図などを作成する時に威力を発揮すると思います。

(一人でも正確に作図することが可能)

具体的には

① パソコンを一箇所において (持ち運ぶことなく)、Disto 側の操作のみで作図を進めることができる。

(作図を確認しながら、作業を進めるとより効率はよい)

② 計測を一人で行うことができるので、現地作業人員の減員を見込めます。

不満な点

① 4 5 度毎の角度しか指定できない。(一般的な間取りであれば問題ない)

② 完成した図形が線分で構成されている。(ポリラインではない)

ポリラインの方が後の操作で便利。(面積や周長計算など)

③ 角度の 0 度の位置がイメージしにくい。(上方向が 0 度に設定してある、慣れの問題)

しかし、簡単な部屋の計測作図であれば十分利用可能だと思います。

尚、検証は **AutoCAD2010** で行いました。

DISTO Transfer for PC を使用できる AutoCAD のバージョンは、インストールされている ARX プログラムから、AutoCAD2004 から AutoCAD2010 であることが推測されます。